

= CAMPUS LIFE = 課外活動紹介

「さんさ踊り実行委員会」

年間10回以上のお披露目に呼ばれるというさんさ踊り実行委員会。活動内容や魅力について伺いました。

私が取材をしました!

i-Connect社員
人文社会科学部4年
北田 工さん



「三陸委員会ここより」

三陸委員会ここより副代表の深澤馨大さんに取材しました! その気になっている学生の皆さん、お見逃しなく!

私が取材をしました!

i-Connect社員
理工学部3年
石橋 理絵さん



Q さんさ踊り実行委員会はどんなサークルですか?

A さんさ踊り実行委員会は8月1日～4日にかけて開催される盛岡さんさ踊りのパレード出場およびそれに向けた練習を中心に活動している学生団体です。ただし、期間限定で活動している団体というわけではなく、盛岡さんさ踊り終了後も不來方祭や外部団体からの公演依頼に向けて練習を継続しています。



公演依頼は例年10件ほど来ます。

もともと岩手大学の職員主導で活動していた団体でしたが、数年前に学生主導に切り替わったことで、現在は学生主体でありつつも岩手大学職員と共同で活動しています。

Q 乙部さんが入部したきっかけを教えてください。

A 私は盛岡市出身で、小学生時代に学童の先生に誘われたのがきっかけでさんさ太鼓の演奏をやり始めました。それ以来盛岡さんさ踊りの練習を続けており、大学入学後も続けたいと思ったため、さんさ踊り実行委員会に入部しました。

Q 活動をするにあたって苦労したことはありますか?

A 初心者から経験者まで在籍しているため、練習プログラムを考える際にどちらの比重を大きくするか、どの時期にどのくらいの強度の練習を実施するか、といった練習のバランスを取ることに特に苦労しました。

また、盛岡さんさ踊りは男性よりも女性の方が踊りやすいため、身体の構造上踊りにくい男子学生にも配慮した練習プログラムを考えることにも苦労しました。

Q さんさ踊り実行委員会の魅力を教えてください。

A メンバーの8～9割が入部当初は盛岡さんさ踊り初心者で、入部以前に授業以外で楽器に触れたことがないという人もかなり多いですが、ミスさんさの踊りを参考に「基本に忠実なさんさ踊り」を意識した練習を行うことで多くのメンバーがパレード当日までにかかなり上達できている、ということが私たちの魅力だと思っています。

また、動きの面では学生ならではの元気さもアピールしており、この点も私たちの魅力の一つだと考えています。

Q 入部を迷っている方へ一言お願いします。

A 「盛岡さんさ踊りに興味がある」「活動を通して友達をつくりたい」など、ちょっとした興味を持ったら説明会にぜひいらしてください!

学生らしい元気な踊りを発表するために日々活動しているさんさ踊り実行委員会さん、次のさんさパレードも楽しみですね!



●取材に協力してくれた方
代表 理工学部 システム創成工学科
4年 乙部 岳さん(岩手県盛岡市立高等学校出身)

Q 三陸委員会ここよりはどんな団体?

A 委員メンバー23名、サポートメンバー41名で活動しています。もともとは2011年の東日本大震災を受け、被災地の復興支援を行うためにできたボランティアサークルです。現在では、復興状況の変化により、ボランティア活動だけでなく、災害公営住宅の地域課題の解決や、過去の教訓を活かし防災意識を高める活動を行っています。



研修旅行(普代村にて)

Q 深澤さんが入部したきっかけは?

A 私は宇都宮市出身で、大学入学を機に岩手に来ました。岩手でしかできないことをしたいと思い、三陸に関わることができるこのサークルを見つけたのがきっかけです。入学したの頃、友人が委員メンバーとして入ったことも大きな後押しになりました。



地域食堂の運営

Q 三陸委員会ここよりの魅力を教えてください。

A 災害公営住宅での地域交流や、三陸地域の訪問を通して、年代層の広いさまざまな人と関わることが魅力です。実際に三陸へ行き、その魅力を知ることができることも大きな魅力の一つですね。美味しい海鮮料理を食べたり、海岸のきれいな景色を見て感じたり。浄土ヶ浜から見る海と、陸前高田からの海の景色は本当に違って、普代村の灯台からの景色も感動的でした。実際に自分で行って魅力を感じ、記憶に残る体験ができるのが一番楽しいです。



ボランティア養成講座

Q 印象深かったことはなんですか?

A 年一回の三陸への研修旅行です。三陸ジオパークの方に震災のお話を聞いたり、被災した当時の資料を見たりしました。また、1, 2, 3年生の学年間の壁をなくしてくれる特別な機会だと思います。丸二日一緒にいるので、メンバーの意外な一面を知ることができてとても面白かったですね。



学修会

Q 未来の新入部員にひと言をお願いします!

A 入部はいつでも歓迎です! 三陸の魅力を見つけながら、楽しく学んでみませんか?

東日本大震災を忘れずに、そして前向きに活動を行うここよりさん。私も入りたくなってしまいました!



●取材に協力してくれた方
副代表 教育学部 学校教育教員養成課程
3年 深澤 馨大さん(栃木県立宇都宮北高校出身)



現役学生が思う 岩手大学の 知ってほしい魅力!

岩大生に学びの場として愛される
岩大図書館の魅力、現役の学生
がご紹介します!

山本館長に図書館を
案内してもらいました。



(右)図書館長の山本欣郎副学長(情報統括・図書館担当)
(左)取材者:i-Connect社員理工学部2年 石橋理絵さん

魅力1 「知りたい!の宝庫」 県イチの蔵書数&専門性の高さ

岩大図書館は、約90万冊の蔵書数を誇ります。幅広い専門分野の本が取り揃えてあり、自分の新しい「知りたい!」を見つけることができます。また、デジタル図書の充実にも力を入れており、研究や勉強に必要な資料を場所を問わず閲覧できる環境づくりに取り組んでいます。現在、電子ジャーナルは約6,000タイトル、電子ブックは9,000タイトルあります。新しく何かを始めたいときや、自分の知りたい分野をもっと学びたいとき、ぜひ岩大図書館を利用してみてください!



理系本



文系本

3階の和書エリア

魅力2 「知りたい!を支える」 充実した集中スペース

学修スペースは集中するのにピッタリ!学生のニーズに応じてさまざまなスペースが提供されています。2階のアクティブエリアでは、友達と分らないところについて議論し合い、コミュニケーションが取れる学修席が設置されています。3階のサイレントエリアでは会話は制限されており、静かなスペースで一人で勉強や読書に集中することができます。座り疲れたら1階飲食可能エリアにひと休みに行くのもいいですね。3階には、立って勉強できるスペースもできました。眠気に打ち勝って集中できそうですね。



アクティブエリア



サイレントエリア



リフレッシュエリア



岩大図書館と樹齢100年の桜

ガラス張りのきれいな曲面を持つ岩大図書館、なぜこのようなデザインになったかご存知ですか?実は、昔からあった古い桜の木を存続させるために、桜の木に沿って曲面のデザインになったそうです!今こうして力強い桜の木を図書館とともに見ることができて本当によかったですね~。



◀ **学生からのリクエスト図書**
岩大生であれば専用のフォームから本の購入をリクエストすることができます。一人年間5冊までリクエストすることができます。毎年300冊程度購入しているそうです。



◀ **英語多読リーダーズ**
難易度ごとに選べる英語多読リーダーズ。身近な植物から宇宙のことまで、さまざまな面白いお話を読むことができます。どんどん英文を読んで、インプットを増やして英語力アップ!



昔の台帳や巻物。巻物は授業の教材として、黒板に掲げていたそうです。



◀ 古い資料の保存

戦前の貴重な資料が多く残されています。実は、戦争時の空襲により、他の県では焼けてしまったものが多いのです。戦前、岩大の前身の高等農林や師範学校で使われていた教材もしっかり残されています。他にも様々な貴重な資料が残されていて、岩大にしかない資料のおかげで発見されたこともあったそうです。

i-Connect 通信欄

こんにちは。学内カンパニー i-Connectの北田工です。

春休みも明け、新入生も入学しキャンパス内が賑やかになってきましたね。私が入学した3年前はCOVID-19パンデミック(いわゆるコロナ禍)の影響で入学式やサークルオリエンテーションなどの行事は軒並み中止、さらに授業も全面オンラインとなったためキャンパス内は閑散としていたのを覚えています。こうしたおそらく過去1閑散とした新年度を知っている身としては、こんなに賑やかなキャンパスで大学生活を始められる新入生が羨ましいな、なんて思ってしまうます。

さて、私たちi-Connectは昨年度も「広報」を軸に様々な活動に携わってきました。まずは何と言っても広報誌の執筆。2019年8月号から執筆に携わっており、今号で10号目となりました。もともと、広報室の学生スタッフによって作られた学内カンパニーということもあり、広報誌執筆は創設時から継続的に実施している、いわば私たちの軸ともいえる活動となっています。他にも例えば、大学見学に訪れた中学生向けのキャンパスツアーの説明や、盛岡市上田商店街との共同企画「うえだまつり」のキャンパスツアー企画で案内役を務め、大学や大学生活について紹介させていただきました。その中で参加者の皆さん

が注目していたのは「時間割」。あらかじめ時間割が決められていて科目選択の自由度がほとんどない中学生たちは、自由度の高い大学の時間割に興味津々でした。

さらに、i-Connectでは動画編集にも取り組んでいます。今後は学内外の団体からの依頼を広く受けたいと考えています。

現在、i-Connectは、学部2・3・4年生が各1名と大学院生1名の計4名で活動しております。活動内容的に文系のカンパニーかと思いきや、なんと人文社会科学部は私だけ、他3名は全員理系学部の学生なんですよ、これが。そういうわけで、取材や記事作成、動画編集など広報活動に興味がある方は岩手大学に入学して学内カンパニー i-Connectのメンバーとして活動することも考えていただけると嬉しいです!

● i-Connectは、岩手大学と地域、学生同士の橋渡しを担うことを目的として広報活動を行う学内カンパニーです。

問い合わせメールアドレス
iconnect.gandai@gmail.com

Twitter
@iConnect_gandai ▶



研究紹介

▶ **ガンダイニング2022**
経営学研究室紹介



▶ **地域政策課程**
研究室紹介動画



ディーセント・ワークへの経営学—真の豊かさを問う—



人文社会科学部 地域政策課程
准教授 **渡部 あさみ**

私の専門は、経営学、とりわけ人的資源管理論です。経営学は、企業、および企業行動を主たる対象とした学問です。企業には、ヒト・モノ・カネ・情報という四つの資源があるとされていますが、私が主たる研究対象としているのは、うちのヒトという資源です。この“ヒト”という資源は、企業の四つのうちで最も複雑な資源ではないでしょうか。なぜなら、企業におけるヒトの「働き方」・「働かせ方」ということを考えると、ヒトという資源は、その日の気分や体調、仕事や家庭の状況によって、顕在化する力が異なるからで

す。企業の人的資源管理の課題は、このヒトという難解かつ複雑な資源をいかに効率的に活用することができるのかというところにあります。

企業におけるヒトという資源の活用、すなわち「働き方」・「働かせ方」をめぐるのは、様々な労働問題が起きています。私の研究テーマは、先進諸国における長時間労働と企業における「働き方」・「働かせ方」です。長時間労働を生み出すような企業における「働き方」・「働かせ方」は、人間らしい「働き方」・「働かせ方」(持続可能な開発目標(SDGs)のうちの一つである「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」)ではないことは明らかです。それなのに、なぜ、先進国である日本において、過労死・過労自殺に至るまでの長時間労働が起きるのか——。そうした問題意識のもと、企業における人的資源管理の実態分析を行っています。長時間労働の要因分析を行う一方、日本の労働時間をいかに適正化していくことができるのかという関心のもと、働き方改革に取り組む企業への聞き取り調査や、国内

外における人的資源管理と労働時間管理に関する聞き取り調査・アンケート調査を行っています。

岩手大学着任後は、経営学を通じて地域社会と向き合うことを心がけています。私が担当する経営学ゼミでは、東北財務局盛岡財務事務所や奥州市商工観光部企業振興課との地域課題解決プログラムに取り組み、企業への聞き取り調査やアンケート調査を行っています。岩手県の企業や政府組織や自治体にご協力をいただきながら、学生と共に地域社会における企業経営について考察を深めています。



企業訪問集合写真

研究紹介

脂質の機能性研究から健康長寿社会を目指す



農学部 動物科学科
教授 **西向 めぐみ**

脂質の研究は面白い

私たちが食事として摂取している脂質の中で、摂取量として最も多いのは中性脂質ですが、その次に多いのはリン脂質です。また、リン脂質は生体膜の構成成分としても、非常に重要な物質です。リン脂質には様々な種類があり、生体内での動態や食品としての機能性のどれをとっても、研究対象として面白い物質です。我々はその中でも「プラスマローゲン」というリン脂質に注目して研究を行なっています。

体を酸化から守る脂質「プラスマローゲン」で老化を防ぐ～自らを酸化させることで酸化から体を守る～

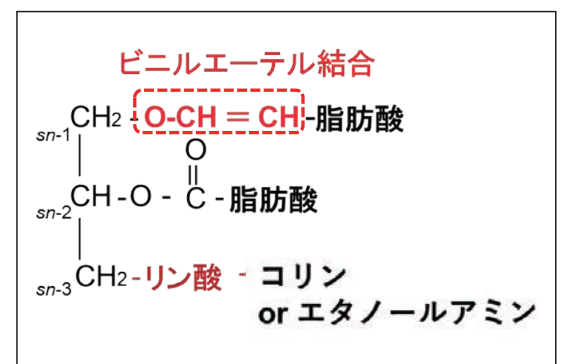
プラスマローゲンは細胞膜の中に組み込まれているリン脂質の一種で、動物から微生物まで広く生物界に存在しています。私たちの体内でも合成

されますが、肉や海産物など食事からも摂取しています。このプラスマローゲンの分子には「ビニルエーテル結合」という部分があり、そこが酸素と結びつきやすい、つまり酸化されやすい構造を持っています。そして私たちの体では、脳など酸素消費量の多い臓器や、皮膚など酸素に触れる場所の細胞に、特に多く存在することがわかっています。酸素は私たちが生きていく上で不可欠なものです。一方で酸化という危険性も有しています。動脈硬化症やアルツハイマー病、老化などは酸化ストレスが関係していると言われています。我々は、ヒト検体を用いた研究で、動脈硬化症の危険性が高い場合や加齢により、血中プラスマローゲンが減少するという結果を得ました。さらに、ラットやマウスを用いた動物実験においても、血中コレステロール濃度の上昇や加齢に伴い、血中プラスマローゲンが減少することを明らかにしています。また、アルツハイマー病の患者さんの脳や血中においてプラスマローゲンの減少が知られています。こうしたことから、プラスマローゲンは自らを酸化させることで、体内の細胞を酸化から守る働きを持つ「抗酸化物質」であり、体内プラスマローゲン量を維持することが酸化に関する疾病の予防につながると考えられます。

体内プラスマローゲンを増やす

現在、様々な疾病と体内プラスマローゲンとの関係を解明するとともに、体内のプラスマローゲンを増やすための研究を進めています。しかし、プラスマローゲンは酸化して壊れやすいため、摂取後に体内でプラスマローゲンに変換される「プラスマローゲンの前駆体であるアルキル型リン脂質」に注目しています。アルキル型リン脂質は私たちの体内にも存在していますが、海産物に多く存在しており、我々はアルキル型リン脂質の素材として、オキアミでの検討を行なっています。

ビタミンなどさまざまな抗酸化物質が研究されていますが、プラスマローゲンは体内でも合成されている内因性の抗酸化物質であるという点で、画期的なものです。



プラスマローゲンの構造

センパイ紹介

OB・OG-INTERVIEW

PROFILE

富士通(株) 職員

ひらやま ひろき
平山 洋輝 さん

岩手県大船渡市生まれ
平成31年3月 大学院総合科学研究科理工
学専攻デザイン・メディア工学コース 修了
富士通(株) SE職



Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

勉強、研究、サークル活動で毎日が大変忙しかったですが、とても充実した学生生活を過ごせました。サークルはオリエンテーリング部に所属しており、休日は山や森の中で過ごしていたため、山が好きになっていました。趣味が山登りということもあり、研究室の先生やメンバーとも一緒に山登りしていました。現在は広島県が職場であるため、岩手山が恋しいです。

Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか。

もともと小さい頃からパソコンやゲームに触れる機会が多く、最先端の技術に関わることができるIT関係の職業はカッコイイと憧れていました。学生生活を通してIT関係の知識を身に付けることができ、無事に夢を実現できました。大学院時代に経験したインターンシップを通し、最先端の研究開発、社会を支えているシステム開発に魅力を感じ、富士通への入社を希望しました。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

自分の作ったシステムがリリースされ、実際にお客様に使用された時にやりがいを感じます。トラブル発生時は大変ですが、チームで協力して乗り越えた時には大きな達成感を得ることができます。様々なシステムに関わるので、自身のスキルの成長につながることは魅力に感じます。

今後の目標は大規模案件のリーダーとしてプロジェクトを推進できるように、更に経験を積んでいくことです。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

勉強やサークル、趣味など、何か一つでも全力で取り組み、成し遂げてください。また、新しいことに興味を持ち、何事にもチャレンジする精神も大事です。毎日ただ何もせずに過ごすのはもったいないです。学生時代に経験したプロセス、成功、失敗は必ず自身の強みになります。

まず手始めに岩手山の登頂を目指すためには何が必要か計画してみませんか？

TOPICS トピックス

岩手大学学生寮でラジオ番組「A.B.C-Z今夜はJ's倶楽部」の収録が行われました！



NHKラジオ第1 毎週火曜 午後9時05分から放送されている「A.B.C-Z今夜はJ's倶楽部 (https://www4.nhk.or.jp/jsclub/)」のMCを務める5人組の男性アイドルグループ『A.B.C-Z』の戸塚祥太さんと五関晃一さんが本学学生寮を訪れ、学生や職員約70人を前に、番組企画「全国とつながろうプロジェクト～全国の学生寮訪ね隊～」の収録が行われました。

本学からは、自啓寮と同寮寮の寮生、さんさ踊り実行委員会、クラフトビール部が出演し、学生寮、サークル、学内カンパニーや岩手大学の魅力を語りました。

戸塚さん、五関さんに聞きました

岩手大学に来てみた感想を教えてください。

五関さん：自然がいっぱいのイメージ。今回は冬だけど、他の季節の岩手大学も見てみたいです。

岩手大学の学生と話してみてもどのような印象を受けましたか？

戸塚さん：さんさ踊り実行委員会やクラフトビール部のメンバーともお話ししてみて、それぞれの活動や想いが過去から未来へとしっかり引き継がれているのが印象的でした。

エコな紙製ファイルできました

東北コットンプロジェクトで栽培された綿等を原料とした「東北コットン紙」を使い、環境にやさしく繰り返し使える岩手大学オリジナル紙製ファイルを作りました。

マークや文字の色は「岩大グリーン」。さまざまな樹木に囲まれ、豊かな自然景観を持つ本学のキャンパスを表すカラーで、宮沢賢治の詩集「春と修羅」にある、ドイツ語の”ZYPRESSEN”（ツィプレセン）日本語訳で「糸杉」が由来となっています。

岩手大学生協で販売中です

販売収益の一部は、本学学生の支援のために活用されています。



Information

岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式Twitterを開設しました！本学に関する情報を随時投稿していきますので、ぜひフォローの上、ご覧ください。

岩手大学公式Twitter
@Iwate_Univ_PR



小川学長Twitter
@iwateu_gakucho



岩手大学公式
YouTube チャンネル



岩手大学ソーシャルメディア
アカウント一覧



「岩手大学イーハトーヴ基金」のご案内

本学の教育研究や学生支援を幅広く展開することを目的とした「一般基金」と、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮する学生たちへの支援など、使途を特定した「特定基金」で構成されます。イーハトーヴ基金による主な事業は下記のとおりです。

岩大100円朝食・岩手大学200円夕食

学生食堂において最大400円相当の朝食を100円で、最大450円相当の夕食を200円で提供し、延べ6,395名の学生が利用しました。

「Choice the 学食Bento!」

学内で販売しているお弁当から一律100円の値引きを実施し、延べ4,256名の学生が利用しました。

うえだめし

学生への経済支援と上田商店街飲食店等の活性化を図る取り組みとして、上田商店街飲食店が作る1個700円相当のお弁当を大学構内にて200円で販売。毎回、長蛇の列ができる大盛況となりました。

新型コロナ生活支援事業

岩手大学生協で使用できる電子マネーの配布を行いました。

修学支援奨学金

継続して給付型の奨学金を実施し、41名に各10万円の給付を行いました。

その他

海外留学支援、外国人留学生への入国支援や法科大学院進学者支援事業として活用させていただきました。

最新の特定基金情報、寄附の申込・払込方法はこちら
https://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/



卒業生の進路状況について

卒業生の就職率や就職先等の進路状況については、以下のページからご覧いただけます。



卒業生の進路状況についてはこちら↑
https://www.iwate-u.ac.jp/career/achievement/index.html

編集後記

今年の冬は寒く雪も多かったせいか、一段と春が待ち遠しい。(今は2月で、この広報誌は4月発行ですね。)加えて、やっとコロナウイルスが収まって来たので、今からお花見も楽しみです。そして今年こそはさんさ踊りを見に行こうと思っています。サークルの皆さん、頑張ってくださいね。ただ、世界情勢を鑑みるに、あまり浮かれ過ぎないように自分に言い聞かせております。



Hi!こちら岩手大学 vol.51

2023年4月発行
岩手大学広報室
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp
https://www.iwate-u.ac.jp/

本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。